

令和6年市長と語る！ふれあいミーティング

会場：吾野地区行政センター

日時：令和6年4月22日（月）午後7時～

《会場での主なご意見等》

【ご意見①】

私は、飯能市で3人の子を育てている。飯能市は子育てがしやすいとすごく感じ、今まで子育てをしてきた。どんぐりルームがあったり、こども図書館があったり、高校生まで医療費が無償化だったり、子どもインフルエンザワクチン接種が無料であったり、子育てに手厚いと感じ、有難く感じる。

旧吾野小学校に子どもが在籍している間に、統合になって閉校になってしまった。

とても、学校が好きで通っていて、校舎の木の雰囲気すごく好きでいたのだが、閉校になってしまった。

先日、地域の方々と桧原村にある「森の美術館」を見に行った。その美術館は廃校をリフォームし、木の雰囲気溢れる施設であった。旧吾野小学校によく似ていた。木のある雰囲気の良い小学校があのまま何も使われずに、ただそのままでは傷んできってしまうと思うので、今後の利活用についてお聞きしたい。

【回答】

確かに日が経つにつれ、建物は傷んでいきます。それを防ぐには早いうちに活用しなくてはということでございます。今まで、市としては避難所として最優先で利用できるように改修してきました。

ただ、今お話がありました美術館や木のテーマパークみたいなものに使えないかというお話がありましたが、私も行政の方で、ある程度リードいたしますが、地域の方、吾野地域の方がどのように使っていきたいのか、その辺を、まず避難所は最優先だと思いますが、その他にどのようなものに使っていきたいのか、その辺につきましては、是非、協議を進めていきたいと思っております。

【ご意見②】

地域福祉推進組織「たすけあい吾野」は会員数が約1,700名という吾野で一番大きな組織になっている。第1次はんのうふくしの森プランに沿って立ち上がった組織で、最初は高齢者福祉を主にやっており、居場所、茶の間、見守り、ふれあい食事会、自治会と合同で敬老会も開催していた。そして地域の移動交通として移動部会を立ち上げ、現在「らくだ号」を運行開始している。

今年の4月から第4次はんのうふくしの森プランが始まり、新しいスローガンとして「子どもを育てる地域づくり」として、子供たちが10年後、20年後もこの地域に住んでいて良かったと言えるようにしていきたいと考えている。

昨年のふれあいミーティングで旧吾野小学校の再活用の協議を始めると言っていたが、この1年間どのような動きがあったのか伺いたい。また、旧東吾野小学校のように一棟貸しできるといいのだが、莫大な経費がかかるため難しいと思う。そこで、部分貸しができるのか。一部を企業に、一部を地域に、例えば、陶芸等の芸術家に貸して教室を開けるようにする。また、子どもたちの遊び場づくり等ができるといいと考えている。

再活用までに年月がかかると修繕費も高額になってしまう。早期に検討を願う。

【回答】

ご意見は承りました。決して、この間手をこまねいていた訳ではなく、真剣に取り組んでいる訳ですので、その辺につきましては、ご理解いただきたいと思います。

ただ、去年と比較してどこがどのように進んだのかと言われましても、具体的な進展が見えていないのが実状でございます。

最初に申し上げましたとおり、この地域の方々がどういう使い方をしたいのか、その辺をしっかりと意志を確認させていただき、市でも積極的に跡地活用に関しましては、取り組んでまいりますのでよろしくお願いします。

【ご意見③】

自治会長になって1年、10年後に吾野地域はどうなるのかということ強く感じている。世帯数は減っていく。高齢者の比率は高い。飯能市全体の中では吾野地区は10年間で人口が減ったのは23.36%。10年前2,363人だったのが、令和4年には1,811人になっている。市内では、一番減っている。高齢者については、飯能市全体で平均年齢48.9歳、吾野地区60.3歳、一番高いのは名栗の61.1歳、平均年齢が60歳を超えている。高齢者人口が6割位になっているかと思う。そのくらいが人口の中心を占めており、この10年間で人口が激減している。このまま手をこまねいては、本当に住みやすいところが維持できるのか疑問を感じている。

また、飯能市の色々な施設について考えてみると吾野地区にあるのは行政センターだけ。他の地域には、スポーツ広場や市立の診療所、福祉センターなどがある。急激な人口減が施設がないからと言うつもりはないが、そういった状況の地域に対して、飯能市の施設が非常に手薄ではないのか。

私なりに旧吾野小学校の利活用として必要なのは、避難所の機能はやはり維持しなくてはならない。これほど大きくて頑丈な施設はこの地域にはない。それは維持できるようにしていただきたい。それを前提に考えた場合、やはり市が中心になって、民間と協働した複合施設として使用していくことを考えていく必要があると思う。地域の声を聞くのは当然だが、飯能市の施設なので、飯能市が責任を負って、民間の力を取り入れながら運営していくことが必要ではないかと思う。

その他に高齢化率が非常に高い、子育てをするには地域が非常に広く、なかなか子どもが集まれるところがない。社会福祉関連の拠点としていく。

飯能市の面積の75%は森林。有効に活用しているかと言うとそうではないと思う。私も山林所有者だが、境界がよく分からない。市もまだ境界を整備してくれていない状況がある。親の世代が山林経営していて、私たちの世代でそれ続けているのは極少数だと思う。山林経営では、生活ができないような状況がこの50年間くらいあるので仕事に就いている。この世代がいなくなって、孫の世代になったらもうどうしようもない。本当に森林のことを考えていくのであれば、この10年くらいが何とかなるかどうかの境目だと思う。他の経済とはペースが違う。他の経済と同じようなスパンでみていたら、絶対にうまくいかない。森林所有者が相当な年齢。ここに住んでいる人は65歳以上が60%。だから、市としては森林環境税など新しい税金が入り、これから森林をテコ入れしなければならないと思うので、例えば、大胆に市の森林づくり課を吾野地区に置いてしまう。この地域は飯能市の森林の一番真ん中であると思う。市役所にいては見えないことも、多分この辺に来るとずいぶん見えてくるのではないかと思う。相当急いでやらなければならないことだと思う。そういったことも行政の一つの役割として是非考えて欲しい。いい施設だと思う。民間の力も借りながら、交流人口を増やしていく形はどうしても必要。急激な人口減の中でやはり人口

を維持していくには、外から色々な人が来るような形を作っていかなければならないと思う。その拠点として是非、旧吾野小学校を活用できるような方策をこの地域の人たちの意見を聞きながら、市が中心に、民間の力を取り入れながら使っていくというようなことを是非考えていただきたい。

【回答】

大変貴重なご意見を承りましてありがとうございます。今後のまちづくりの参考として承っておきます。

【ご意見④】

旧吾野小学校前でスクールバスを待っている。旧吾野小学校の時計が止まっているため、時刻が分からない。時計を直してほしい。

【回答】

早急に直します。

【ご意見⑤】

現在、南川地区、北川地区の小学校はスクールバスに乗って通学している。ここに住んでいる中学生をそのスクールバスに混乗できないか。今、北川地区、南川地区、吾野地区の中学生は13名いる。北川、南川の2便がこちらから奥武蔵小学校へ行っているが、このバスの方を確認したところ、結構、空きがある。もし、可能であれば乗せていただきたい。

梨本地区から奥武蔵小学校、中学校の方に自転車に通っているお子さんがいる。うちの子どもも、最初は自転車通学を考えていたが、秩父御嶽神社から約200mほど飯能市街地方向に向かった西武線高架下側が、歩道が全くない区間が200mくらいある。そこを通らせるのは危険なので自転車通学を辞めさせた経緯がある。朝の時間帯は、その道路はダンプや車の数も多く、車線が減少し、危険である。他の保護者もスクールバスに混乗できればいいという話を耳にしたのでお伝えしたい。

最後になるが、新井市長さんはじめ、市役所職員の方にはいつも地域のことを考えていただき感謝している。多忙な公務だと思うので、まずは健康を第一にしていいただき、そこから地域のこと、色々なことを見ていただければいいのかなと思っている。

また、これからも吾野地域のことをよろしく願いしたい。

【回答】

お気遣いありがとうございます。

お話にあった国道299号線の歩道がない区間について、非常に危険だということを私も認識しております。スクールバスに混乗ということですが、これについては少しお時間をいただいて検討をさせていただきます。